

江東特別支援学校 指導の心得（基礎的環境整備）

- 1 言葉かけは短い言葉で明瞭に話す。**

不必要な言葉は使わず、具体的に表現する。
「すわってください。」「次の時間は〇〇時からはじまります。」
- 2 視覚的にはたらきかける。**

口頭で伝えるだけでなく、身振り手振り、写真や絵、文字で伝える。
- 3 あいまいな言い回しはさける。**

「きちんと」「ちょっとまって」ではなく
「〇〇をしてください。」「〇〇分待ってください。」と具体的に伝える。
- 4 否定語ではなく肯定語で伝える。**

禁止の言葉を入れないようにする。
「黄色いブロックの外側に出ないでください。」⇒「黄色いブロックの内側を歩いてください。」
「ウロウロしないでください。」⇒「〇〇マークのところにいてください。」
- 5 話すときは正面から話す。**

一度にたくさんの情報が入ると、どこを見るのか、誰の話を聞くのかが分からなくなる場合があるので、話している相手が分かるように正面から話す。
- 6 言葉かけの音量を抑える。**

聴覚が敏感な生徒の場合、大きな声だと激しく興奮してしまったり、苦痛を感じてしまうことがある。声の大きさには配慮が必要。
- 7 穏やかな態度で対応する。**

教員が「はらはら」や「ドキドキ」したり、怒っていたりすることは敏感に感じ取るので、できる限り穏やかに対応することを心がける。
- 8 見通しを伝える。**
 - ・「終わり」を伝える。タイマーを提示して終わる時間を明確にしたり、「〇〇が終わったら、終わり。」と具体的に伝えたりして見通しがもてるようにする。
 - ・スケジュール表等を活用して授業の流れに見通しがもてるようにする。
- 9 上手に褒める。**

活動が正しく行えたら、「よくできたね」などと褒めるようにする。
自信をもつことで、適切に行動することができる。
- 10 刺激を減らす。**

感覚が過敏な生徒がいる。視覚的な刺激（伝える内容の一つずつにしたり、提示物に過度な装飾をしたりしないなど）や聴覚的な刺激（声の大きさや周囲の環境によって伝わらないときがある）には配慮する。